

ピワ灰斑病におけるベンズイミダゾール系薬剤耐性菌の防除対策						
〔要約〕 <u>ピワ灰斑病のベンズイミダゾール系薬剤耐性菌発生圃場</u> において、 <u>イミノクタジナルベシル酸塩水和剤</u> は有効である。						
長崎県果樹試験場・病害虫科	専門	作物病害	対象	果樹類	分類	普及
平成11、12年度 長崎県果樹試験場業務報告						

〔背景・ねらい〕

露地ピワ産地における果実腐敗の主原因である灰斑病菌について、現行の主防除薬剤であるベンズイミダゾール系薬剤に対する耐性菌の発生が問題となっている。そこで、その耐性菌に有効な防除薬剤を検討する。

〔成果の内容・特徴〕

- ①長崎市の現地圃場から採集したピワ灰斑病菌のベノミル耐性菌株（1999年9圃場17菌株、2000年8圃場17菌株）に対して、イミノクタジナルベシル酸塩剤では、100ppmで、ほとんどの菌株の菌糸伸長を抑える（表1、表2）。
- ②現地の耐性菌発生圃場において、イミノクタジナルベシル酸塩水和剤は、灰斑病による果実腐敗に対して高い防除効果を示す（表3）。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①ピワ灰斑病菌による果実腐敗の防除対策に活用する。

[具体的データ]

表1 ベノミル耐性菌株に対するイミクタジナルハシ酸塩剤の菌糸伸長抑制効果 (1999年)

イミクタジナルハシ酸塩剤の濃度 (ppm)	<1	1	5	10	50	100	500	1000	合計
菌糸伸長菌株数	3	8	2	3	0	1	0	0	17

表2 ベノミル耐性菌株に対するイミクタジナルハシ酸塩剤の菌糸伸長抑制効果 (2000年)

イミクタジナルハシ酸塩剤の濃度 (ppm)	<1	1	10	100	1000	合計
菌糸伸長菌株数	1	10	6	0	0	17

表3 ベンズイミダゾール系薬剤耐性菌発生圃場 (長崎市) におけるイミクタジナルハシ酸塩水和剤の果実腐敗防除効果

薬剤名	希釈倍数	調査果数	灰斑病による腐敗果率 (%)		
			収穫時	収穫後8日間累積	合計
イミクタジナルハシ酸塩水和剤	1000倍	111	0	5.4	5.4
チオファネートメチル水和剤	1000	118	2.5	14.4	16.9

注) 薬剤散布: 2月25日 収穫日: 6月5日 耐性菌株率 100% (20菌株調査)

表4 ベンズイミダゾール系薬剤感受性圃場 (大村市) におけるイミクタジナルハシ酸塩水和剤の果実腐敗防除効果

薬剤名	希釈倍数	調査果数	灰斑病による腐敗果率 (%)		
			収穫時	収穫後8日間累積	合計
イミクタジナルハシ酸塩水和剤	1000倍	112	0	1.8	1.8
チオファネートメチル水和剤	1000	102	0	1.0	1.0
無散布	-	104	0	3.8	3.8

注) 薬剤散布: 2月29日 収穫日: 6月12日

[その他]

研究課題名: 果実腐敗の発生要因の解明と効率的防除法の確立

予算区分: 県単

研究期間: 平成12年度 (平11~15年)

研究担当者: 小嶺正敬、大久保宣雄